

科目名		3DインテリアI			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		コーディネーターの実務上必要な、プレゼンテーションの必要性と技法を学び、3Dインテリアデザイナーの基本操作を習得しコンペ作品等に対応する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う 2. 見せ方描き方学び、訴求力のあるプレゼンテーションスキルを習得する 3. 顧客のニーズやインテリアトレンドを取り入れ、条件に即したコーディネートを目指す			
学習目標 (到達目標)		3Dインテリアデザイナーの基本操作を学びながら、インテリアの基本知識とコーディネート力を身に付け、訴求力のあるプレゼンテーション技法を学びます。実務におけるプレゼンテーションの重要性を理解し、コンペや就活に活かせる作品をつくる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 3DインテリアデザイナーNeo 3			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	ソフトセットアップ ①プログラムのセットアップ及び、ライセンス認証の実行 ②操作画面・機能紹介			方法：機能と操作方法について解説する。演習課題に取り組み基本操作を身に付ける。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。	
2	インテリアエレメントについて講義 ①主な内装材の種類について ②家具の配置、照明計画、窓装飾について			方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。	
3	演習1①：「マンションの間取り作成とインテリアコーディネート」 ・顧客の条件に合わせたインテリアスタイルを決める ・間取り編集から壁・柱・天井の作成 ・照明・窓装飾の配置			方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。	
4	演習1②：「マンションの間取り作成とインテリアコーディネート」 ・立体化にて内装材(床・壁・天井)の配置 ・住宅設備の配置 ・家具・照明・ファブリックスの配置			方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。	
5	演習1③：「マンションの間取り作成とインテリアコーディネート」 ・プレゼンボードの作成 ・レイアウトの基本について学ぶ			方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。	
6	演習2①：「JAPANTECHデザインコンペ2024」 ・コンペ課題の条件・概要について深く理解する ・作品イメージをまとめる ・作品テーマにつながるキーワードを見つける			方法：コンペ作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに入賞を目的とする。 準備：配布プリント	
7	演習②：「JAPANTECHデザインコンペ2024」 ・作品のコンセプトを考え、デザインにどう反映するか考える ・付帯条件を理解し、空間の全体イメージを決める ・作品で使用する、インテリアエレメント(要素)を決める			方法：コンペ作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに入賞を目的とする。 準備：配布プリント	
8	演習③：「JAPANTECHデザインコンペ2024」 ・3Dパースを完成させる ・サンプルの手配 ・完成訴求力のあるプレゼンシートを目指す			方法：コンペ作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに入賞を目的とする。 準備：配布プリント	
9	コンペ作品発表 ①作品の発表 ②作品の講評			各自コンセプトや内容について発表し、講評・解説を行う。	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組姿勢	課題			3DインテリアデザイナーNeo 3の基本操作を学びながら、インテリアエレメントやプレゼンテーション技法について幅広く学ぶ。コンペに挑戦することで、自ら学び表現する力を習得する。トレンドの分析、配置計画、色彩計画を学び、訴求力のあるプレゼンボード制作を目指す。個人作業が主体となり、レベル差が出やすい内容であるため、適宜個人指導を行い技術の定着を図る。	
30 %	70 %		%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴19年			

科目名		インテリア家具製作実習Ⅰ				
担当教員		中川 雅之		実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		集成材を使い、背もたれのない椅子・スツールの製作をする。着想・デザイン・設計・製作・ポートフォリオ作成・プレゼンテーションまでの一連の流れを経験することで、モノができるプロセスを理解する実習				
学習目標 (到達目標)		「デザインの源は、モノを見ることである」ということに気づく				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		実習用材料、方眼紙				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	名作椅子の観察・スケッチ			名作椅子と呼ばれる椅子を観察し、スケッチをしながら、見る力をつける		
2	板組スツールのデザイン			集成材を用いた板組のスツールを製作するにあたって、サイズ感や形状を考える		
3	板組スツールの設計			各自着想したデザインをもとに、部材寸法を割り出し、設計図を製作する		
4	中間発表			各自の図面や模型を、お互いに見たり聞いたりしながら、デザインの改善点を見つけ、後半に備える。		
5	手工具・電動工具の使用法			ノミやのこぎりなどの手工具、および、ジグソーやインパクトドライバーなどの電動工具の安全な使い方を理解し、練習する		
6	板組スツールの製作			各種工具を使い、各自の設計図を参照しながら実際に手を動かし、加工、組み立てを行う		
7	板組スツールの仕上げ			オイル塗装を行い、仕上げとする。		
8	講評会			各自の作品を、お互いに見たり聞いたりしながら、デザインのバリエーションやデザイン手法の見識を深める		
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
取組み姿勢	安全配慮	提出物		デザインの読み解き方を知ると、身の回りの物に対する見方が変わります。楽しみながらインテリアデザインについて学びましょう。		
30 %	10 %	60 %	%			
成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		家具デザインと製作における歴17年				

科目名		インテリア実習Ⅰ			
担当教員		鈴木 幸恵		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	選択必修	授業形式	実習	時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方	インテリアにおける、プロダクト、トレンドやデザイナーについてなど幅広い知識を学ぶ。また、企業とのコラボでニーズに合わせた空間演出を課題を通してトレーニングする実習 1. 説明→プランニング→実習→講評→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 目的を持って、表現する空間演出のプロセスを計画・実習する。 3. 条件に則した製作の進め方の基本を理解する。 4. 校外授業として企業や店舗の見学を行い、見聞も広げる。				
学習目標 (到達目標)	インテリアコーディネートに必要な知識を学習し、適切な選択と提案ができるようになることを目指します。また効果的なプレゼンテーションのためのテクニックを習得します。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①超図解で全部わかるインテリアデザイン入門 ②はじめてのインテリア製図				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	イメージスケールについて ①イメージスケール表 ②インテリアイメージの実現方法			方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。	
2	インテリアイメージの種類・イメージを決める要素 ①マテリアルボードの作成			方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。	
3	寸法とモジュール ①空間にかかわる人や物の寸法や動作に必要なスペースの知識 ②基準となる「モジュール（基本寸法）」の利用			方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。	
4	平面図・展開図の作成 ①リビングルームの平面図・展開図を作成する			方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。	
5	アイソメ図・パースの作成 ①リビングルームのアイソメ図・パースを作成する			方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。	
6	プレゼンボードの作成 ①訴求力のあるプレゼンボードの作成			方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。	
7	ショールーム等見学 住宅関連のショールームで実際に流通している商品を確認する			方法：ショールームで各エレメントの機能を学ぶ。 見学前：見学目的を明確化 見学後：レポートで、見学の効果を確認 準備学習：現場研究とマナー等の指導	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組姿勢	課題			プレゼンテーション技法を学び、2年次インテリアコーディネーター資格試験合格を目指します。実務に活かせる知識やテクニックを学習し、即戦力となるようしっかりと技術を習得しましょう。	
30 %	70 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)					
B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	インテリアコーディネーターの業務における歴8年				

科目名		カラーコーディネーション			
担当教員		木下 聡子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		色の基本的な仕組みや、人に与える心理効果を学び、配色の基本を環境の事例等を通して学ぶ。 1. 色の働きと分類、視覚効果の基礎と重要性を学ぶ。 2. 人の心理と関係が深いことを認識し、環境に適した配色を理解する。			
学習目標 (到達目標)		色彩の基礎を学び、効果的なカラーコーディネートが出来るようになることを目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①色彩検定公式テキスト ②新配色カード199用演習台紙 ③配色カード			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	概要説明 ①科目概要について ②色の働きについて			色の働きの種類と内容が説明できるようになる。	
2	色の表示 ①色の分類と三属性 ②カラーオーダーシステムについて			色の分類と三属性、カラーオーダーシステムについて説明できるようになる。	
3	配色イメージ ①色の三属性と配色イメージ			三属性と配色イメージの関係について説明でき、配色できるようになる。	
4	色彩心理-1 ①色の心理効果について (色の三属性と心理効果について)			色の三属性と心理効果について説明できるようになる。	
5	色彩心理-2 ①色の視覚効果について (色の対比現象等について)			色の視覚効果について説明できるようになる。	
6	色彩調和 ①配色の基本的な考え方 ②三属性及びトーンから見た考え方			配色の基本的な考え方、技法について説明できるようになる。	
7	光と色 ①光と色の関係について			光と色の関係について説明できるようになる。	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	評価テスト		インテリアにおいて色彩は重要な要素のひとつである。基礎をしっかり身につけて色を使いこなせるようになることを目標とする。それに向け、定期的に小テスト等を行い知識の習得状況を確認し、その状況に応じて反復学習をして知識の定着を目指す。また演習課題を通して実践的な理解、習得を目指す。	
5 %	60 %	35 %	%		
成績評価基準は					
S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		店舗内装、撮影衣装などに関する色のアドバイス等の業務に21年携わる。			

科目名		一般構造Ⅰ			
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	前期は基礎・地盤・建物に働く力・木構造を学びます。基礎や地盤にはどのような種類があるのか、建物にはどのような力がかかるのか、木構造はどのような構造なのかをテキストに沿って解説します。分野ごとに確認問題を行いながら進めていき、学習した内容を覚えられるようにしていきます。				
学習目標 (到達目標)	基礎・地盤・建物に働く力・木構造について学び、2級建築士試験の「構造」の知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社) ②配布プリント (OneNote)				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	基礎 ①基礎の種類と特徴			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	地盤 ①地層による年代区分と、土の性質			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	建物にはたらく力 ①荷重の種類・外力の種類と建物にかかる力 ②地震に対する対策と構造計算			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
4	建物全体の構造計画 ①建築構造の分類とその特徴 ②計画に適した構造の選択			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
5	木構造の基礎知識 ①木材の性質、特徴 ②木構造の種類とその特徴			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	在来工法-1 ①在来工法の部材の名称 ②在来工法の基礎と地業の種類と特徴			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	在来工法-2 ①在来工法の軸組の各部材 (土台・柱 ②在来工法の軸組の各部材 (横架材・筋かい)			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	在来工法-3 ①在来工法の壁の種類と特徴 ②開口部の部材の名称			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
9	評価テスト (2回実施予定)				
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学びます。 1年生では木造を中心に学習し、確認問題・評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。	
50 %	40 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建築大工として約5年実務に携わる				

科目名		環境工学			
担当教員		佐野 綾香		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	建築計画と自然環境の関わりを理解し、快適で目的に応じた建築計画について学ぶ。 1. 前期は「建築環境の明るさと物の見え方」と「建築物の温熱環境」について理解する。 2. 快適な建築環境を実現する為の具体的な工夫について学ぶ。 3. 評価テストを適宜行い、理解度を確認する。				
学習目標 (到達目標)	建築空間を取り巻く外部環境や内部環境について理解し、安全で快適な建築空間を作るための知識を習得する。建築士の学科試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい建築環境、配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	視覚と光 ①光の単位 ②光によって生じる視覚の変化。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①②の予習	
2	昼光、人工照明、照明計画 ①日照及び人工照明による照明計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	色の効果 ①色彩によって生じる様々な効果。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	色の表示と表色系 ①表色系の種類と構成			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	温度と熱移動 ①熱の移動と熱伝達、熱伝導、熱貫流率			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	室温と熱負荷 ①室温の変動 ②室内外への熱の出入り ③断熱性能			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①②③の予習	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		評価テスト：評価テストを適宜実施する他、レポートや課題の評価 取組姿勢：授業態度や課題の提出状況の評価	
50 %	40 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	設計事務所で設計業務に4年間設計に従事				

科目名		建築計画Ⅰ			
担当教員		鈴木 幸恵		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。			
学習目標 (到達目標)		建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を習得する。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築計画（学芸出版社） ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築計画の基本知識－1 ①単位と寸法 ・建築で使用される長さ及び面積の単位			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	建築計画の基本知識－2 ①人体寸法と動作寸法 ・人間工学に基づく人体寸法と動作寸法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	建築計画の基本知識－3 ①建築計画の進め方 ・モジュールとモジュラーコーディネーション ・機能計画（ゾーニング・グルーピング）、動線計画、規模計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	各部および単位空間の計画－2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	各部および単位空間の計画－2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	独立住宅の計画－2 ①独立住宅の平面形式 ・平面形式(プランタイプ)について ②独立住宅の事例			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
7	独立住宅の計画－3 ①独立住宅の工法 ・住宅の工法に関する用語,各種工法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的にテスト評価テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
50 %	30 %	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	インテリアコーディネーターの業務における歴8年				

科目名		建築材料			
担当教員		富山 翔		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物を構成する様々な材料の種類と性質に関する基礎知識を学ぶ科目で、前期は一般的に建築に使用される材料の種類や木材・コンクリート材料の性質の習得を目的として、座学や事例を通して学ぶ。			
学習目標 (到達目標)		建築物を構成する様々な材料の種類と性質に関する基礎知識を理解する。前期は一般的に建築に使用される材料の種類や木材・コンクリート材料の性質のに関する知識を習得し、2級建築士学科試験における科目範囲の合格点に達する力をつける。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築材料 (学芸出版社) ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築材料の概要 ①建築材料の歴史・規格・環境・分類・性能			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	木材-I ②日本建築における木材の種類・特徴 ③木材の強度・構造			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
3	木材-II ④木材と水分 ⑤木取り、規格、等級			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
4	木材-III ⑥エンジニアリングウッド			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	コンクリート-I ⑦コンクリートとは ⑧セメント・骨材・水の性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	コンクリート-II ⑨混和材料 ⑩コンクリートの性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	コンクリート-III ⑪コンクリートの調合設計・種類 ⑫コンクリートの製品			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	鋼材-I ⑬鋼材とは、製鋼の工程 ⑭鋼材の特徴・種類			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
9	鋼材-II ⑮鋼材の性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築系の各種試験を受験するにあたって、建築材料についての知識は必須となります。1年次前期では日本の建築で多用される木材・コンクリートの知識を学習するため、重要科目と捉えて、配布プリントやテストで確認しながら合格基準への到達を目指します。	
40 %	50 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建築事務所において建築材料を取り扱う実務経験3年			



科目名		建築史			
担当教員		熊谷貴子		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に記載された用語やその説明・建築物名などをマークする</li> <li>・まとめノートの板書</li> <li>・映像資料を視聴し感想文を記入する&lt;映像レポート&gt;の提出</li> <li>・テストで学習達成度の確認する</li> </ul>			
学習目標 (到達目標)		西洋建築の様式とその特徴、代表的な建築物や建築家を学ぶ			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○図説 建築の歴史 (学芸出版社) 各自で準備 ●教科書をチェックする色ペン ●まとめノート			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	「建築史」を学ぶということ・にいがたのケンチュ オリエントの建築			建築の歴史を学ぶ意義、新潟の著名建築とその建築家を学ぶ 古代オリエントの代表的建築物を学ぶ	
2	ギリシア建築 ローマ建築			ギリシア建築の特徴と代表的建築物を学ぶ ローマ建築の特徴と代表的建築物を学ぶ	
3	初期キリスト教建築・ビザンツ建築 ロマネスク建築			キリスト教建築のはじまりと 東ローマの代表的建築を学ぶ ロマネスク建築の特徴と代表的建築物を学ぶ	
4	ゴシック建築 ルネサンス建築			ゴシック建築の特徴と代表的な建築物を学ぶ ルネサンス建築の特徴と代表的な建築物を学ぶ	
5	バロック建築・ロココ 新古典主義建築・歴史主義建築			バロック建築とロココの特徴と代表的な建築物を学ぶ 新古典主義・歴史主義の特徴と代表的な建築物を学ぶ	
6	評価テスト			学習達成度の確認	
7	産業革命と建築 近代造形運動			産業革命による技術革新とアーツ&クラフツ運動を学ぶ アールヌーボーと各地の近代造形運動を学ぶ	
8	モダニズム建築			近代建築三大巨匠のフランク・ロイト・ライト ミス・ファン・デル・ローエ ル・コルビュジエ を学ぶ	
9	期末テスト			学習達成度の確認	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
テスト	提出物	取組姿勢		世界の建築物とその様式を学び、これからの新しい創造への基礎知識としましょう	
80 %	10 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外部講師、現在家業の建築大工と協働			

科目名		建築施工Ⅰ			
担当教員		笠原 涼馬		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科NORTH	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	建築を考えるうえで建築施工の基礎的な内容を理解しておく必要があります。そのために前期の授業では、工事契約から基礎地業工事を中心に解説します。建築施工を理解でき、説明できるようになることを目指します。授業の進め方は、講義→2級建築士の試験問題→解説を繰り返します。評価テストを実施し、理解度を確認します。				
学習目標（到達目標）	前期は工事契約から基礎地業工事を中心に学び、2級建築士学科試験の科目範囲の合格点に達するための理解を目指します。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 建築施工 編著者：江口清ほか 発行：（株）学芸出版社 ②配布プリント、③配布資料★				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	【工事契約】 ①建築に関わる人々と工事の流れ・工事請負契約書 ②工事請負契約約款・仕様書			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	【積算】★ ①工事費の構成 ②工事費の算出 ③数量積算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②、③を理解する 準備学習：教科書①、②、③の予習	
3	【施工計画】 ①施工計画 ②施工計画書 ③工程計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②、③を理解する 準備学習：教科書①、②、③の予習	
4	【施工管理】 ①品質管理 ・ 工程管理 ・ 安全管理 ②原価管理 ・ 環境管理			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
5	【地盤調査】 ①地盤調査の種類（サウンディング、平板載荷試験）			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	【測量】★ ①直接仮設工事の測量 ②各種測量			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	【仮設工事】 ①共通仮設 ・ 直接仮設 ・ 作業床 ・ 仮設通路 ②はしご道 ・ 災害防止措置			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	【土工事】 ①根切 ・ 埋戻し ・ 排水 ・ 山留			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	【基礎地業工事】 ①基礎 ②杭			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト	期末試験	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築施工について解説します。 1年の前期は工事契約から基礎地業工事を中心に説明し評価テストと期末テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。 取組姿勢：授業態度、欠席、遅刻など総合的に判断します。	
40 %	50 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	不動産関係の営業1年、施工管理として2年				

科目名		建築設備			
担当教員		伊與部 聖奈		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、 授業の進め方		授業はプリントを使用し、分かりやすい言葉を用いたり図を描くなどして、イメージがしづらく取っ掛かりにくい設備分野の理解、知識習得を目的とする。また、練習問題を実施し、どのような出題形式で問われるかも合わせて確認する。 前期では、給排水衛生設備、換気設備、電気設備などの試験でも中心的に問われる分野を学習する。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初学者の建築講座 建築設備 (第五版)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	給排水衛生設備			給排水衛生設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
2	換気設備			換気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
3	電気設備			電気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
4	※各分野ごとに評価テストを行う。(4回を予定)				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	取り組み姿勢		各分野ごとに評価テストを行う。また、評価テスト及び期末試験時には知識の書き込みを課すのでその内容や量を取り組み姿勢として評価する。出席状況や授業中の取り組み姿勢も加味する。評価テストはもちろん、日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。	
50 %	40 %	10 %	%	建築設備は快適な居住環境を整えるためになくてはならないもの。身の回りで使われているところを探し、イメージを持って学習しましょう。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			

科目名		建築法規 I			
担当教員		三留 正		実務授業の有無	○
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>・テキストを中心に建築基準法及び関係法令を学ぶ。                  法の分類や構成、形式及び条文の内容(条件・基準・計算方法など)について学習する。</p> <p>1. 座学→確認テスト→添削と解説を繰り返し行い知識の習得を図る。                  2. 法令集を活用し各自で法令の検索方法を理解し、内容を的確に読み取れる様に学習する。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>・人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識の習得。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>①やさしい建築法規・著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社                  ②建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院</p>				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	法規に触れよう ①身近にある法規を探してみる。 法令集を開いてみる。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
2	建築基準法の概要 ①法令集の読み方の説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
3	用語の基本定義 ①建築物・建築設備・居室・主要構造部・大規模の修繕と模様替え、特殊建築物・指定工作物について。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
4	建築手続き ①確認申請、中間検査・完了検査、建築主事と特定行政庁・指定確認検査機関について説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
5	敷地・面積・高さ等の算定 ①建築物の敷地、敷地面積・建築面積・延べ面積、建築物の階数について説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
6	採光に関する基準 ①室内環境と安全、居室の採光・有効採光面積について説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
7	換気に関する基準 ①室内環境と安全、居室の換気、アスベスト規制・シックハウスに関する基準について説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
8	構造に関する基準 ①居室の天井の高さ・床の高さ・地階の居室の基準、共同住宅等の各戸の界壁に関する基準について。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	確認テスト			建築法規は建築全てにおいて関係しています。「法」を知る事で他の授業もわかり易くなると思います。法令集と仲を深めながら、楽しく学んでいきましょう。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		設計業務、施工管理業務に25年実務に携わる			

科目名		構造力学Ⅰ			
担当教員		星野 麻子	実務授業の有無	有	
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築系講義における構造力学の位置づけを理解する。 まずは構造力学を学習するにあたり必要な算術計算を理解した上で、部材に作用する力とは何かを学び、その力に関する基礎から反力までを学ぶ。 各項目について理解状況の確認の為テストを行う。				
学習目標 (到達目標)	部材に作用する力の種類と計算方法を習得し、力の基礎から反力までを理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい構造力学・配布プリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	構造力学に必要な算術計算		これから構造力学を学ぶにあたり、必要となる基礎的な算術計算を復習する。		
2	力の基礎		力の表現方法(主に力の向きと符号)を習得し、力を分解することについて学ぶ。		
3	力のモーメント		離れた力が離れた点にどのように作用するのかを学び、その計算方法を習得する。		
4	合力		部材に複数の力が作用するような場合、合わせてどのくらいの力が作用するのかを学ぶ。		
5	分布荷重		部材に分布する荷重を学び、その考え方と合力の算出方法を習得する。ここまです評価テスト1で確認する。		
6	力の釣り合い		以後反力を学ぶにあたり、部材が静止すること・部材が釣り合うということについて理解を深める。		
7	構造物の支え方		部材の支持方法によって発生する反力の種類と特徴を学ぶ。		
8	単純梁・片持梁・張出梁の反力		以後この反力を求めることが必須になる。その基礎となるこの分野で沢山の例題を解いて様々な問題に対応できるよう理解を深める。		
9	ラーメンの反力		以後この反力を求めることが必須になる。その基礎となるこの分野で沢山の例題を解いて様々な問題に対応できるよう理解を深める。ここまです評価テスト2で確認する。		
10			※評価テスト2の後で前期で履修した内容の応用問題にも挑戦し、これまでの内容について前期の終わり頃(現段階では夏休み前の週を予定)に最終評価テストを行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価テスト1	評価テスト2	期末試験	取組姿勢	構造力学は建築士試験に於いて点数の稼ぎどころとなる部分です。全ての項目に於いてその後の問題を解くために確実に身に付けていかなくてはなりません。分からないところを分からないままにせずしっかりと身に付けて次に進むようにしましょう。解けた時の達成感を楽しみながら学習しましょう。	
20 %	20 %	50 %	10 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	住宅設計に11年間従事				

科目名		就職実務Ⅰ			
担当教員		鈴木 幸恵		実務授業の有無	無
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		就活ではただ就職できればいいわけではなく、自分の望む企業、自分に合った企業に就職することが大切です。就職を成功させる為に必要な情報収集や企業研究に取り組みます。自分自身を知り、志望する職種を研究し、納得できる就職活動を始められるよう準備をしましょう。			
学習目標 (到達目標)		働く意義を理解したうえで、自分に適した職種を見つけられる。自分自身をよく知り、志望動機を作成できる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		SUCCESS、配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	就職活動の準備とスタート ・就職活動の心構え ・就職活動の流れ			納得できる就職活動を進めるために、「働く意義」について考える。「企業はどんな人材を求めているか」、「就職活動はどの時期に何をすべきか」を理解し計画を立てる。	
2	自分と職業を理解する ・自分自身を知る ・職業を知る			自分の強みを発見する。業種と職種を理解し、求められる知識を関連資格から考えてみる。	
3	志望動機 ・志望動機とは何か ・志望動機の作り方			志望動機とは「自己PR」と「企業研究」から成り立つことを理解する。志望動機に求められることを正しく理解し作成する。	
4	情報収集・企業研究 ・情報収集のポイント ・企業研究の方法			企業研究するうえで、必要な情報は何かを理解し情報収集するための方法を知る。収集した情報から、企業を絞り込む方法を理解する。	
5	企業訪問 ・作成書類(エントリーシート、履歴書の書き方) ・企業訪問			エントリーシートとは何かを理解する。履歴書の書き方を理解し、実際に書いてみる。企業訪問の目的を理解し、必要な書類や持ち物を準備する。	
6	就職試験 ・就職試験のマナー ・面接、筆記試験対策			就職試験のマナーがなぜ重要視されているかを理解する。選考のポイントを理解し、採用試験に備える。採用試験の結果が出たあとで、どう対応すべきかを知る。	
7	就職適正検査実施(夏休み前)			適正検査から行動傾向を把握し、強みや弱みについて理解する。自らの仕事観や仕事に求める条件を理解し、就職活動に役立てる。	
8	第1回進路希望調査実施(夏休み期間)			志望企業や職種を絞る。	
9	求人票の見方			求人票に書かれてる内容について理解し、それぞれの項目がどのような意味を持っているか説明出来るようになる。	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
提出物	平常点	期末試験		自己分析と職種や企業についてしっかりと研究することで、志望職種・志望企業が明確になります。就職のイメージはまだ明確でない人も多いと思いますが、就職活動は1年後期から本格的に始まります。その時になって慌てることのないよう、前期から早めに準備を進めていきましょう。	
40 %	10 %	50 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴					

科目名		住宅計画演習			
担当教員		金山 知美		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	演習	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>・住宅計画の基本原則（平面計画・寸法計画・面積計画・環境計画等）を理解し、設計条件の整理・プランニングの流れを習得できるようになる。</p> <p>・オリジナル住宅の計画を行い、エスキスを完成させることでプランニングのノウハウを体得するところを目的とする。</p>				
学習目標 (到達目標)	オリジナル課題（設計条件）から、適切な配置計画によるプランニング力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初めて学ぶ建築計画・住宅の計画学入門・スライド・配布プリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	住宅計画の基本 1		<p>・住宅計画の基本原則を学ぶ。平面計画（室・用語）、寸法（人体寸法・家具）、面積（広さの算定）他。</p> <p>座学・スライド等を使用して説明。</p>		
2	住宅計画の基本 2		<p>・快適な居住空間のための配置、環境計画、暮らしの動線等を学ぶ。座学、スライド等を使用して説明。</p>		
3	一般的な住宅プランを上記の方法で実践 (基本的な考え方を覚える)		<p>・簡単な住宅設計課題を解説、手順等を学習しながらエスキスを完成させ提出する。</p>		
4	1. オリジナル住宅のエスキス		座学・スライド等を使って解説。 課題に沿ったエスキスの完成後→提出		課
5	2. オリジナル住宅のエスキス		座学・スライド等を使って解説。 課題に沿ったエスキスの完成後→提出		課
6	2. オリジナル住宅のエスキス (店舗併用住宅)		座学・スライド等を使って解説。 課題に沿ったエスキスの完成後→提出		課
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
取組姿勢	課題			日当たり良い部屋、スムーズな家事動線など、快適な住まいづくりに必要な建物の配置計画、平面計画の基本的な考え方を学びます。日頃から身近な家具や建具の寸法を意識し、住まいの間取りや動線について調べることから始めましょう。住宅計画演習でエスキスを完成させる独立住宅と店舗併用住宅のプランは、後期の製図と3Dインテリアで使用する課題となります。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	インテリアコーディネーター16年				

科目名		設計製図A				
担当教員		三留 正		実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		製図用語及び製図道具の名称について解説を行い課題を通して道具の使用方法を習得する。製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。木造住宅の各種図面の作図方法と木質軸組み工法の仕組を課題を通して習得する。				
学習目標 (到達目標)		2級建築士試験の設計製図に対応できる知識を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○初学者の建築講座 建築製図 (市ヶ谷出版) ○製図板・製図用具一式				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	製図の基礎 製図道具の使い方・線の引き方・文字の書き方			線の引き方・線の太さの使い分けなど手描き図面の基礎的な部分を実践しながら道具の使い方を学ぶ。		
2	木造軸組み構造(2階建て住宅)の製図 配置図兼1階平面図・2階平面図の作図			作図手順を学び、作図演習で配置図兼1階平面図及び2階平面図の作図方法を習得する。完成後提出する。		
3	木造軸組み構造(2階建て住宅)の製図 立面図の作図			作図手順を学び、作図演習で立面図の作図方法を習得する。完成後提出する。		
4	木造軸組み構造(2階建て住宅)の製図 断面図の作図			作図手順を学び、作図演習で断面図の作図方法を習得する。完成後提出する。		
5						
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題評価		取組姿勢		建築士試験に於いて二次試験の基礎となる部分です。線の太さと濃淡を意識してぶれないくっきりとした線を心掛けましょう。課題提出締め切り日は常に意識して、集中力を切らさず取り組むことも練習しましょう。授業時間は集中し、休み時間はしっかり休む等メリハリをつけて臨みましょう。メリハリのある図面を完成させたときの達成感を楽しみましょう。※取組姿勢：授業態度		
80 %		20 %				
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						
実務経験教員の経歴		設計業務、施工管理業務に25年実務に携わる				